

「赤谷プロジェクトにおける地域材の活用 of 取組

～カスタネットづくりの取組～

関東森林管理局 静岡森林管理署 一般職員 小向 愛
(元 計画課)

1 課題を取り上げた背景

群馬県東部に位置するみなかみ町にある相模国有林を舞台に、自然再生復元計画を推進する「赤谷プロジェクト」という取組があります。赤谷プロジェクトでは、人工林の広葉樹林化やイヌワシの餌場環境創出のための小面積皆伐、地元の子供たちへの森林環境教育などさまざまな取組が行われています。そのような自然再生という視点に立った取組を行う一方で、地域づくりの一環として、赤谷の森の広葉樹を活用することが赤谷プロジェクトにおけるひとつの重要課題として認識されるようになりました。

2 具体的な取組

赤谷プロジェクトの中で、赤谷の森の広葉樹を生かせる地域産業がないか探すうちに、みなかみ町に以前は全国のカスタネット需要の約7～8割を支えていた「プラス白桜社」という会社のカスタネット工場があることを知り、そのカスタネット職人である富澤健一さん 教育用カスタネット をお願いをすることを考えました。しかし、ちょうどその時、富澤さんはカスタネットづくりをやめ、工場をたたむ準備をしていたところでした。以前は、多くの人が見かけたことのある赤と青の教育用カスタネットを年間2百万個も製造していた工場でしたが、一人で一つのカスタネットを持っていた時代から、一つの学校に備品としていくつかのカスタネットがある時代に変わり、需要が減少したことと、自然保護の高まりを受け、主な原材料である広葉樹材の入手が困難になったことから、日



本で一番カスタネットを生産していたみなかみ町の工場は2013年に廃業になっていました。富澤さんは、カスタネットづくりをやめ、奥さんとの旅行や趣味の写真に精を出そうと思っていたそうですが、「地元の木をつかって、地元の子供たちのために、またカスタネットを作ってほしい」という赤谷プロジェクトの人たちの熱意にほだされ、ブナの丸太2本で1千個のカスタネットを作り始めました。

3 結果

2014年の4月から工場を『カスタネット工房』と改め、再スタートを切り始めた富澤さんでしたが、原材料を確保できるのかという不安がありました。しかし、赤谷プロジェクトの後援である資生堂の協力を得ることができたため、地元の新治小学校の新入生にカスタネットをプレゼントすることができました。この活動は2015年以降も続き、町内にある5校の小学校全てに富澤さんのカスタネットが配られました。今後は、みなかみ町の友好都市である東京都中野区の新児に配られたり、企業にノベルティとして配られたり、様々な活動に富澤さんのカスタネットが活躍することとなっています。

4 考察

拡大造林が行われていた時代は、大量に良質なブナなどの広葉樹材を手に入れることができたが、自然保護の高まりを受け、伐採自体が慎重になったことで、富澤さんのように廃業せざるを得なくなってしまった木工職人がいます。これからは、自然の保護と利用を両立させて、それを通じた地域づくりを行っていくことが重要であると考えられます。



右 筆者が作成した
カスタネット
左 富澤さんが作成した
カスタネット